

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成 22 年 5 月 6 日 (2010.5.6)

【公表番号】特表 2009-533500 (P2009-533500A)
 【公表日】平成 21 年 9 月 17 日 (2009.9.17)
 【年通号数】公開・登録公報 2009-037
 【出願番号】特願 2009-504603 (P2009-504603)
 【国際特許分類】

C 0 8 J 9/12 (2006.01)

C 0 8 G 18/40 (2006.01)

C 0 8 G 18/38 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 J 9/12 C F F

C 0 8 G 18/40

C 0 8 G 18/38 F

【手続補正書】

【提出日】平成 22 年 3 月 18 日 (2010.3.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アニオン性親水化ポリウレタン水性分散体 (I) およびカチオン性凝固剤 (I I) を含有する組成物を発泡させ、乾燥させることを含む、ポリウレタンフォームから製造される創傷接触材料の製造方法。

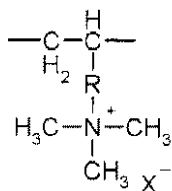
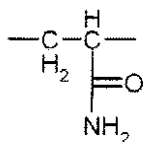
【請求項 2】

アニオン性親水化ポリウレタン水性分散体 (I) が、
 A) イソシアネート官能性プレポリマーを、
 A 1) 有機ポリイソシアネート、
 A 2) 4 0 0 ~ 8 0 0 0 g / m o l の範囲に数平均分子量および 1 . 5 ~ 6 の範囲に O H 官能価を有するポリマーポリオール、
 A 3) 任意に、6 2 ~ 3 9 9 g / m o l の範囲に分子量を有するヒドロキシル官能性化合物、および
 A 4) 任意に、イソシアネート反応性の、アニオン性または潜在的アニオン性親水化剤および場合により非イオン性親水化剤
 から調製し、
 B) 次いで、その遊離 N C O 基を、完全にまたは部分的に、
 B 1) 任意に、3 2 ~ 4 0 0 g / m o l の範囲に分子量を有するアミノ官能性化合物、および
 B 2) アミノ官能性の、アニオン性または潜在的アニオン性の親水化剤
 と、連鎖延長しつつ反応させ、
 工程 B) の前、間または後に、プレポリマーを水に分散し、存在する潜在的イオン基を、中和剤との部分的または完全反応によってイオン状態に転化することによって得られることを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

カチオン性凝固剤 (I I) が、一般式 (1) および (2) :

【化 1】



式 (1)

式 (2)

[式中、R は、 $\text{C}=\text{O}$ 、 $-\text{COO}(\text{CH}_2)_2-$ 、または $-\text{COO}(\text{CH}_2)_3-$ であり、 X^- は、ハライドイオンである。]

で示される構造単位を含んでなるアクリルアミドコポリマーであることを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】

発泡剤および気泡安定剤として、スルホスクシンアミドおよびステアリン酸アンモニウムの混合物を使用し、これらの混合物が 70 重量% ~ 50 重量% のスルホスクシンアミドを含有することを特徴とする、請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の方法。

【請求項 5】

請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の方法によって得られる創傷接触材料。

【請求項 6】

乾燥状態で微孔性連続気泡構造および 0.4 g/cm^3 未満の密度を有することを特徴とする、請求項 5 に記載の創傷接触材料。

【請求項 7】

100 ~ 1500% の範囲に生理食塩水吸収度（乾燥フォームの質量に基づいた、吸収された液体の質量；DIN EN 13726-1 Part 3.2 による測定）、および 2000 ~ 8000 $\text{g}/24 \text{ 時間} \times \text{m}^2$ の範囲に水蒸気透過率（DIN EN 13726-2 Part 3.2 による測定）を有することを特徴とする、請求項 5 または 6 に記載の創傷接触材料。

【請求項 8】

アニオン性親水化ポリウレタン水性分散体（I）およびカチオン性凝固剤（II）を含有する組成物。